動

報

告

Ш

誰ひとり取り残さない環境教育を提供するために

<基本姿勢>

私たちは、自然の魅力や自然の大切さを 伝える「環境教育」をベースとしたアプ ローチによって、"自ら課題を見つけ、学 び、考えて行動できる人"を育て、自然と 人間が共生できる社会『持続可能な社 会』の実現を目指しています。



ご寄付を活用させていただくにあたり、 私たちは身体的理由や経済的・地域的な 理由などで、これまでJEEFのプログラム に参加する機会のなかった方々との出会 いの場を増やし始めています。



この「JEEF NEWS LETTER」では、日常 生活で不安やストレスを抱えている方た ちに"ほっとする"あるいは"わくわくす る"ような自然体験、社会体験、環境教育 のプログラムを提供している様子をお伝 えしています。ぜひ、ご一読頂きJEEFに ついてご理解いただくきっかけになれば 幸いに存じます。





人を育てる、世界を変える。

日本環境教育フォーラム

https://www.jeef.or.jp/



すべての子どもが自然とふれあえる環境をつくる

少子高齢化、都市化が進み、共働きや一人親世帯の増加等、近年の社会変化の中で子どもたちが地域で様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長していくという機会が減少しています。

わたしたちは、全国の自然学校等との協働により、子どもたちの健全な成長を支える 「自然体験活動」を推進しています。自然の中で過ごす時間は、子どもたちの元気や活 力をとり戻し、自ら考え行動する力を育む時間になります。



〔取り組み〕奥多摩の森で過ごす・親と子のわくわくキャンプ (小中学生・親子)

日 時:2023年7月22日(土)~23日(日)

場 所:奥多摩町(東京都)

協 働:認定NPO法人アースマンシップ

何をしてもいい!「生活のために必要な作業はみんなでやる」という約束以外は好きなことを好きなだけしていい!渓流遊び、たき火、木登り、秘密基地作り、ハンモックで昼寝・・・

ひとり親家庭を対象とした親子キャンプを開催しました。8組の親子をご招待し、大人にとっては子育てや仕事での忙しい日々を忘れて自然に癒されながら自分と向き合う時間、子供にとっては自然の中で新たな発見・挑戦・成長できる時間を過ごしました。

参加者の中にはひとり親ということで子供の自然体験の機会が少なく、問題 意識を持っていた方が多く、また募集定員を大幅に超える応募をいただき、ひ とり親家庭の自然体験へのニーズの高さを実感しました。今後も寄付事業を通 じて、同様の自然体験の場を提供したいと考えております。







〔取り組み〕南房総・大房岬で過ごす

~親と子のわくわく体験・海プログラム~ (小学生・親子)

日 時:2023年9月17日(日)~ 18日(月・祝)

場所:南房総市大房岬自然の家

協 働:特定非営利活動法人千葉自然学校

緑と海に囲まれた大房岬にて、ひとり親家庭の親子12組(計29名)とともに、海を満喫する宿泊プログラムを実施しました。自然の中の散策に始まり、海ではSUPやカヤックに挑戦、夜には手作りの仕掛けでウミホタルを捕まえて観察。翌日には拾った貝殻でウィンドチャイム作りなど、盛りだくさんの二日間となりました。

親子プログラムではありますが、常に親子が一緒にいるわけではなく、子ども同士・大人同士で過ごしたり、時には親子で一緒になったり、一人で過ごしたりと、それぞれが自分にとってよい時間を持てることを大切に、二日間を過ごしました。SUP、ビーチコーミング、ただ海に浮かぶなど、子どもたちは、それぞれの楽しみ方で、海を満喫している様子でした。初対面の子同士も帰りのバスではお互いに打ち解けた様子で「また来たい、みんなで遊びたい」「SUPが楽しかった!もっとやりたい!」と、口々に話していました。

保護者の方からは、「保護者同士のつながりができてよかった」「子どもたちに色々な体験をさせたいが、なかなか自然体験はさせてあげられないので良い機会だった」「子どもとずっと一緒にいなくてもよいということで、大人自身も楽しめた」という声をいただいたほか、事後のアンケートでは、「帰宅してからも家族の中で今回の宿泊体験のことが話題になってコミュニケーションが取れている」「親子関係が穏やかになった」といった声も寄せられました。プログラムを通して、大人も子どもも自然と親しみ、ともに体験をすることで人と人とのつながりが深まっていく時間となりました。







〔取り組み〕 大阪わくわくこどもキャンプ(小学生)

日 時:2023年1月28日(土)~29日(日) 場 所:大阪府立少年自然の家(大阪府)

指導主管:大阪体育大学野外活動

大阪体育大学野外活動部との協働により、ひとり親家庭の小学2~6年生の子どもたち22名(15家族)を対象に1泊2日のウィンターキャンプを開催しました。キャンプでは、ウォークラリー、野外炊事、ハイキング、クラフトなどを実施しました。最初は子どもたちも緊張な面持ちでしたが、徐々に打ち解けていき、普段はなかなか体験できない活動に大興奮。

また、1泊2日の期間中は保護者にとってレスパイト(一時的休養)の機会になることも狙いとして実施。保護者からも"久しぶりにゆっくり過ごすことができた"といった感想がありました。

(保護者より)

- ・子どもがとても楽しかったようで、たくさん話を聞かせてくれました。自然 の中では子どもたちもストレス発散できるんでしょうね。
- ・行く前は不安だったと思うのですが、行ったらとても楽しく過ごせて満足そうでした。(中略)私一人ではキャンプも不安で連れて行けなかったのでとて もよい機会でした。



大阪体育大学野外活動部の キャンプリーダー



開催当日は大寒波とも重なり 焚き火で暖を取る



〔取り組み〕 北海道わくわくこどもキャンプ・冬(小学生)

日 時:2023年2月18日(土)~19日(日)

場 所:キトウシ森林公園・大雪山青少年自然の家

共 催:NPO法人大雪山自然学校

今回は1泊2日で『キトウシ&美瑛こどもキャンプ』冬編を開催!前回同様に、ひとり親世帯や生活困窮世帯の子どもたちを含め、総勢20名の子どもたちが参加しました。

冬の自然を思う存分楽しんでもらえるように、北海道の魅力を最大限に活かしダイナミックな雪の中にベースキャンプを置きました。キャッキャと雪合戦をしてはしゃぐ子、一生懸命に雪のブロックを切ってイグルーをつくる子、温かいココアをみんなに配る子…自分なりの楽しみ方を見つけていく中で、自然とお互いの個性を尊重しあい、思いやる子どもたちの姿が見られました。また、秋のキャンプに続いてリピート参加した子は、お友達に巻き割りや火の焚き方を教えてあげたりするなどリーダーシップを発揮して、前回からの大きな成長を感じました。

保護者アンケートのなかでは、子どもに冬の楽しさを感じさせたい一方、冬の野外体験に関する知識や技術がないことや、冬の装備を揃えることにハードルを感じていたとの声も多くあり、今回はそれにお応えする形で冬でしか味わえない自然体験を子どもたちに提供することができました。

(保護者より) キャンプ中の出来事を自分から話してくれ、自分のことだけでなく他の参加者の子を気にかけることができた様子でした。

荷物を整理するのが苦手だと言っていましたが、帰ってきたときにきちんとカバンに荷物を入れていた所に成長を感じました。キャンプへ参加する前は「用意するよー!」と声をかけてやっと用意するという感じだったので、前日に自分で次の日に着る服を出せるようになり、とても成長を感じました。何を用意するかもわかってきていて、スムーズにできるようになったと思います。



エゾ鹿角クラフト



雪の中の楽しみ方は 意外とたくさんあります



〔取り組み〕秋の大自然を満喫キトウシ・美瑛こどもキャンプ (小学生)

日 時:2023年11月18日(土)~19日(日)

場 所:キトウシ森林公園・大雪山青少年自然の家

共 催:NPO法人大雪山自然学校協 力:旭川NPOサポートセンター

北海道東川町にあるキトウシ森林公園と国立大雪青少年交流の家をフィールドに、「火起こしの達人をなろう!」をテーマに開催。 当日は旭川市やその近郊に住む小学1年生~6年生17名が参加しました。

初日のプログラムはお米を炊くための薪割りからはじまりました。初めの子もベテランの子も集中して薪を割り、あっという間に時間は過ぎていきました。そして、自分たちで割った薪で北海道の新米を羽釜で炊き、温かい豚汁とともに昼食です。 そして、国立大雪青少年交流の家に移動して、森のなかを散策したり、キャンプファイヤーをしたりと秋の大自然を満喫した2日間となりました。

保護者の方からも「行く前は少ししぶり気味だった息子が、楽しかった!また次も行きたい!!清々しい表情でお話してくれたことがとても嬉しかったがとなってもないう大切なことの学びになったようです。」や「家では嫌がってしなかった薪割りをキャンプ後は率先してかるようになりました。」などの感想が寄せられました。





〔取 り 組 み〕発達凸凹自然体験教室 なないろの大冒険 ~木こりになろう編~(小学生・親子)

日 時:2023年11月25日(土) 場 所:ホールアース自然学校

協 力:NPO法人ホールアース自然学校

なないろの大冒険は発達障がいを個性ととらえ、その児童と保護者が雄大な富士山麓での自然体験を通じ、相互に新たな一面に気付く機会になることを目指し、立ち上げられた活動です。自然のなかで、子ども達自身が肌で感じ考え、行動に移すことで自分自身を肯定し、自宅や学校での生活がより快適に過ごせるようになることを願い活動を続けています。

木こりになろう編には親子4組 (12名)が参加。はじめに林業の 仕事や日本の森やそこに暮らす生 きものについて学んだあとは、実 際に森に入り、参加者全員で協切しながら1本の大きな木を切り倒した木を切り倒した木を 使ってコースターやパズルなどを 作成。森と私たちの暮らしのつな がりを考える時間となりました。







〔取り組み〕こども食堂で味噌づくり講座(小学生・親子)

日 時: 2023年4月4日(火)

場所:千葉県木更津市富来田公民館

協 働:くすのき自然クラブ/子ども食堂 馬来田ぷらす

子ども食堂を利用している方々約20名を対象に、地元産の大豆・米 糀を使って味噌を作る講座を開催しました。

子ども食堂馬来田ぷらすでは低価格で会食形式での夕食の提供が行なわれていましたが、コロナ禍では各自,お弁当を持ち帰る形式が続いていました。スタッフと利用者の交流もままならない中、食の講座を開催することにより体験を楽しみ、共有する機会となりました。

味噌の材料である大豆は未成熟の時は枝豆であることや、大豆の品種がたくさんあること。大豆が育つ過程での昆虫や小動物との関わりなども学びました。身近な食材・味噌を手作りする楽しさ、食べることの大切さを会場の皆さんと共有できました!有料だと参加が難しい方々にプログラムを提供することができ、大変喜ばれました。

※子ども食堂とは、地域住民や自治体が主体となり、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供するコミュニティの場です。





探究の場に出る少ない子どもたちに楽しい学びのチャンスを

小児がんなどの重い病気と闘う子どもたちや、学校に行けていない子、地域的・経済 的な理由で都市の会場まで足を運べない子など、なかなか探究的な学びと出会う機会に 恵まれない子どもたちがいます。

そこで、そういった子どもたちがいる場に伺い、さまざまなワークショップを実施するほか、おうちでも簡単に楽しめる実験や、その際の子どもとのかかわり方などを子どものまわりにいる大人たちに伝え、おうちにいながら楽しい学びとつながる機会をつくる活動を続けています。



〔取り組み〕 探究ワークショップキャラバン

日 時:① 2023年1月13日(金)-15日(日)

- ② 2023年7月8日(土)-9日(日)
- ③ 2023年8月21日(月)-22日(火)
- ④ 2023年9月29日(金)-10月1日(日)

場 所:① 香川県丸亀市/② 岡山県岡山市/③ 静岡県浜松市/④ 青森県弘前市

協 力: ① NPO法人未来ISSEY/② NPO法人ポケットサポート ③ 浜松こども館/④ NPO法人つがる野自然学校

全国各地に伺って無料の探究ワークショップを提供し、学ぶことの楽しさや、外の世界に興味をもつきっかけをつくるプロジェクトです。

香川や岡山では、病気と闘う子どもやその周りにいる大人を対象に、身近なものから 探究をつくるワークショップを、静岡や青森では、学校の学習に乗れていない子や、そ ういった子にどう寄り添うか悩んでいる保護者を対象にワークショップをそれぞれ開催 しました。

最初のうちは慣れない学習スタイルに「どうせ分からないし…」と引いてみていた子どもたちが、コツを掴んでくるにつれてとどんどん前のめりになり、ワークショップ終了後も帰ろうとしないで探究を続ける姿に、子どもたちの学びに対する旺盛な意欲を感じました。





大人こそ、自然体験を!

ストレス社会で日々がんばる私たち。自分自身と会話する時間、持てていますか?『自然体験を通した環境教育(= 人づくり)』を積み重ねてきた私たちは、ストレス社会に生きる大人にこそ、もっと自然に触れる時間を作ってほしいと願っています。

森という場は、SDGs・人材育成・健康・ワーケーション等多様な切り口で 持続可能な社会の実現のために有効活用できる可能性を秘めています。



〔取り組み〕 森 de リトリート・特別編

日 時: (春) 2023年4月14日(金)~ 15日(土)

(秋) 2023年11月22日(水)~ 23日(木・祝)

場 所:清泉寮(山梨県北杜市・清里高原)

共 催:公益財団法人キープ協会

「人と自然」をつなぐ試みとして、健康やセルフケアという視点で森を捉え、人も森も元気になるために私たちができることについて考えていく契機となることを願い、リトリート※プログラムを企画しました。 ※リトリート: 自分自身(心と身体のバランス)を整えなおすこと

「清里の森で、自分と自然の声に耳を澄ます2日間」をテーマに、五感をフルに使って心と身体で森の時間を味わっていただく大人の自然体験を春と秋に開催。何もせず、何も考えず、ただ1人、寝転がっているだけがこの上ない贅沢な時間となる。各回10名の参加者には、日々の喧騒を忘れて森の中で自分自身を見つめる、充実の2日間を過ごしていただけたように思います。

心をリセットし、新しい自分で再スタートするために、森でリトリートしてみませんか!

※ 治療を目的としたプログラムではありません。



森の中で寝転んで 見える景色



はだしで森歩き



2024年は、さらに活動の幅を広げていきます。

皆さまからのご寄付がこのような活動の支えとなっています。 ぜひ、継続的なご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



教育の力で、環境問題を解決する。
Creating sustainable society through environmental education.



お問い合わせ先

e-mail:charity-m@jeef.or.jp TEL:03-5834-2897 担当:総務部 中野